

審議会等会議録

(順不同・敬称略)

会議の名称	令和 7 年度第 3 回加須市高齢者相談センター及び地域密着型サービス運営委員会
開催日時	令和 8 年 1 月 2 6 日 (月) 午後 1 時 3 0 分から午後 3 時 0 0 分まで
開催場所	加須市役所 5 階 5 0 4 会議室
委員長氏名	野呂 牧人
出席委員	野呂 牧人、今成 幸子、瀧澤 八重子、大瀧 廣、石原 肇、長谷川 雅之、大島 さち子、民部田 美保、中田 恵久子
欠席委員	大塚 重治
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委員の委嘱 3 あいさつ 4 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 高齢者相談センター運営委員会 <ol style="list-style-type: none"> ① 令和 8 年度高齢者相談センター事業計画 (案) 等について ② 介護予防支援等業務委託状況等について ③ 各高齢者相談センターからの報告事項について (2) 地域密着型サービス運営委員会 <ol style="list-style-type: none"> ① 令和 7 年度地域密着型サービス事業所の公募結果等について 5 その他 6 閉会
会議資料の名称	<ol style="list-style-type: none"> 1 令和 7 年度第 3 回加須市高齢者相談センター及び地域密着型サービス運営委員会次第 2 令和 8 年度高齢者相談センター事業計画 (案) 【重点取組事項】(資料 1) 3 重点取組事項 (資料 2) 4 令和 8 年度高齢者相談センター事業計画 (案) 【計画 (目標) 値】(資料 3) 5 事業計画値 (資料 4) 6 令和 8 年度高齢者相談センター運営委託事業予算 (案) の概要 (資料 5) 7 令和 8 年度高齢者相談センター運営方針 (案) (資料 6) 8 指定介護予防支援等の事業の委託先の追加等について (資料 7) 9 介護予防支援等業務委託状況 (資料 8) 10 令和 7 年度加須市看護小規模多機能型居宅介護事業所公募審査

	結果及び今後の対応（資料9） 11 令和7年度加須市認知症対応型共同生活介護（認知症高齢者グループホーム）の整備事業者公募に係る経過について（資料10）
会議の公開又は非公開の別	一部非公開
非公開の理由	
傍聴者の数	—
事務局職員等職・氏名	福祉部長 宮寄秀樹、福祉部高齢介護課長 高瀬郁子、 同課主幹 杉山大綱、遠藤正芳 同課主査 根岸和美、江花豊希、 同課主事 木村恵理、 加須・大桑・水深高齢者相談センター愛泉苑 地主光枝、 不動岡・礼羽・志多見高齢者相談センターみずほの里 川島三枝子、 小池 彩子、 三俣・樋遣川・大越高齢者相談センター利根いこいの里 橋本将来、 騎西高齢者相談センター多賀谷寿光園 菊池績宏、 北川辺高齢者相談センター加須清輝苑 小針智、 大利根高齢者相談センターふれ愛の郷 櫻井博喜、小松拓哉
説明者の職・氏名	福祉部長 宮寄秀樹 福祉部高齢介護課長 高瀬郁子 同課主幹 杉山大綱、遠藤正芳
会議録の作成方法	<input checked="" type="checkbox"/> 要点記録 <input type="checkbox"/> 全文記録
その他必要な事項	なし

様式第3号（第8条関係）

発言者	会議の内容(発言内容、審議経過、決定事項等)
事務局	<p>1 開会 (開会)</p>
	<p>2 委員の委嘱 (副市長による委嘱状の交付)</p>
野呂委員長	<p>3-1 委員長あいさつ</p> <p>本日は、お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。</p> <p>少子高齢化と叫ばれてから大分経ちますが、2025年問題と言われた年がもう終わってしまい、年が明けて2026年になりました。</p> <p>認知症高齢者の独居の方が、これからも確実に増えると言われていきます。</p> <p>その方たちの例えば意思決定支援について、身寄りのない方達に対する後見に関する活動なども、これから見込まれるものと思われまます。</p> <p>それから多重課題のケースが実態として増えていて、こども、精神疾患、身体障がいや高齢のケースが複合している場合などが挙げられます。全国的な課題として、これら以外に埼玉県、加須市もそうですが、外国人の方達の課題、空き家の問題、ヤングケアラーの問題、生活保護の方のように低所得者層が増えている問題があります。</p> <p>一方で高齢者の課題としては、移動の問題、受診や買い物の問題、こういう多くの課題が地域にあって、高齢者の課題に関しては、高齢者相談センターの皆さんが活躍してくださっているのですが、前回の会議にあったように、そういう課題や相談件数が増えているのだというようなお話を伺っています。</p> <p>加須市をどのようなまちにしていくのかということは、計画にうたわれているわけなのですが、やはり、住みたくなる、暮らしたくなるようなまちづくりというところで、高齢者相談センターの皆さんが、地域の方たちと一緒に、この事業を継続していくために何ができるのか、支えていけるのかという観点からも、本日は令和8年度の事業計画を中心に議事が進行しますので、委員の皆様から色々な御意見をいただければと思っています。</p> <p>是非活発な議論をしたいと思います、御協力をよろしく願いいたします。</p>
萩原副市長	<p>3-2 副市長あいさつ (省略)</p>
	<p>4 議事(1) 高齢者相談センター運営委員会 ① 令和8年度高齢者相談センター事業計画(案)等について</p>
野呂委員長	<p>それでは、次第に従いまして、順次、進めさせていただきます。 はじめに、議事の(1)①について事務局から説明をお願いします。</p>

事務局	(資料1と資料2について、令和8年度高齢者相談センター事業計画のうち、重点的に取り組んでいく事項に関するものであることを説明し、第1圏域「高齢者相談センター愛泉苑」から順に、令和8年度の重点取組事項について、設定した経緯などを含めて説明してもらうように案内)
各高齢者相談センター	高齢者相談センター愛泉苑から順に6圏域が、令和8年度高齢者相談センター事業計画(案)―重点取組事項―を説明)
事務局	(続いて、資料3から資料6により、議事(1)の①を説明)
	4 議事(1) 高齢者相談センター運営委員会 ② 介護予防支援等業務委託状況等について
事務局	(資料7及び資料8により議事(1)②を説明)
	4 議事(1) 高齢者相談センター運営委員会 ③ 各高齢者相談センターからの報告事項について
事務局	(第1圏域「高齢者相談センター愛泉苑」から順に、令和7年度の業務運営を通じて感じている業務の傾向等について報告してもらうように案内)
高齢者相談センター愛泉苑	<p>第1圏域は高齢者人口が多く、職員の人数も多いのですが、今年度の傾向として暑くなる時期が早かったため、7月には熱中症で入院されたという相談対応が爆発的に増え、初めて総合相談の件数が50件を超えた月となりました。</p> <p>御家庭全体が困っていた状況として、夫婦2人で何とか生活していたが、どちらかが入院したことによって家庭の課題が噴出していったというケースが増えていて、それだけではなく今年度は、夫婦両方の問題によりセンターの対応が始まるということが多くありました。</p> <p>その都度市役所とも連携をとりながら、色々な機関におつなぎしてという対応をしてきました。</p> <p>今年度の相談は複合的な課題が多かったことから、とにかく3職種で相談をしようということで、朝や夕方にミーティングの時間を設けて、皆で協力して対応してきました。</p> <p>これからも継続していかなくてはいけないことだと思っていますので、専門職の自覚をもって3職種で協力して対応していきたいと思っています。</p> <p>あとは新規のサロンとして、今年度は4箇所立ち上げることができて、介護予防も力を入れることができたと思っています。</p> <p>実態把握訪問ということで、今年度は500件の目標を立てて回っていますが、センターにはどういう相談があるのかという御質問を多くいただいています。それに対し、困ったときには相談センターへとお伝えしていますが、お元気うちでも介護予防の視点を持ってセンターに御相談いただければ、ふれあいサロンなどの社会資源につな</p>

	<p>ぐこともできますよというふうにお伝えしています。</p> <p>来年度は、おそらく大きく人員の体制は変わらないと思われませんが、3職種で協力し、ケアマネジャーや地域住民とも一緒に連携しながら、業務を進めていきたいと思っています。</p>
<p>高齢者相談センターみずほの里</p>	<p>今年度の相談件数を見ると、昨年度よりかなり件数が増えていて、相談内容として、昨年は猛暑ということもあり、熱中症、脳梗塞や心筋梗塞の疑いなど緊急を要するケースが増えました。</p> <p>センターへの相談では、家族からの相談が一番多いのですが、第2圏域は民生委員さんが協力的で、地域連携という部分ではとても仕事がしやすい環境になっています。</p> <p>特徴として独居の方が増えてきていて、セルフネグレクト、ごみ屋敷など、ある意味深刻なケースが多く、家族機能の低下や支援力の不足というところで、家族調整に多くの時間と負担を要するケースが増えているのが実情というところです。</p> <p>サロンは1箇所つくれましたが、1箇所閉鎖ということで、件数的には変化はありません。</p> <p>あと、あがらっせ便りを2箇月に1回、地域の民生委員さんや住民に対して発信をしまして、介護予防の啓発活動などに活用しています。</p> <p>みずほの里では、あがらっせカフェというのを毎月やっています、第4金曜日に認知症とその家族を支えるためにオレンジカフェを開催しております。スタッフも認知症への理解を深めるということで、普及啓発活動や、認知症サポーター養成講座などの部分で取り組んでいるところです。</p> <p>あとは2箇月に1回ですけど、志多見地区、不動岡地区、礼羽地区で、地区ごとにカフェを開催をしまして、地域住民同士がつながりを強化できる場所を提供させていただいています。</p>
<p>高齢者相談センター利根いこいの里</p>	<p>第3圏域では、相談内容は介護保険を使いたいというのが大半なのですが、その中でも、認知症があるというケースが多いというのを強く実感しています。</p> <p>認知症があっても専門医につながっていないとか、病院に行けないという課題があって、専門医に対するハードルも高いのかなという課題を感じています。</p> <p>ケアマネジャーにつないで終わりではなくて、センターもケアマネジャーと一緒に専門医への通院を考えるなど、時間をかけて対応しています。</p> <p>その他に身寄りがいなくて、本人は大丈夫だよと言っているけど、周囲が心配しているというような困難ケースで、何度も足を運んで見守りを行い、皆で協力し、時間をかけて対応しています。</p>

	<p>利根いこいの里では、今年度、特にチームアプローチというのを大事にして、3職種皆で協力して話し合う機会を増やして、困難ケースや認知症の方へ対応していこうと心がけています。</p>
<p>高齢者相談センター多賀谷寿光園</p>	<p>第4圏域の特徴ですが、団塊の世代の方たちが多く、その方たちが後期高齢者となっており、また、地域性なのか、高齢者世帯、独居世帯、身寄りのない高齢者の方が多い状況です。</p> <p>今年度は総合相談等で、そのような身近に家族がいない高齢者への対応をすることが比較的多くありました。</p> <p>これらの問題について、センター内または行政、関係機関との協議を多く行えたと感じております。</p> <p>あと実態把握訪問では、高齢者相談センターのパンフレットを用いて、とにかく困ったら高齢者相談センターへ連絡をくださいという啓発を行いました。</p> <p>これは反省点になってしまうのですが、今年度はケアマネジャー支援が若干少なかったと思いますので、これについてはもう少し頑張らなくてはと感じております。</p>
<p>高齢者相談センター加須清輝苑</p>	<p>第5圏域では独居世帯、高齢者のみ世帯が、親族との関与が乏しくなっているケースが増えていると感じております。</p> <p>理解力や判断力の低下が見られる高齢者に対しての本人支援、意思決定支援を行いながら、親族と連絡をとり、サービスにつなげるというケースが多くなっていると感じています。</p> <p>特に北川辺地域は、こどもが市外に出ている方が多いことやアパートの賃貸価格が他地域よりも低いので、家庭に複雑な事情を抱えている方が移り住んでくるといったケースが多く見られます。</p> <p>あとは高齢者と同居する精神疾患を抱えている方のケースも増えていまして、高齢者の対応に関してはセンターが中心となっていきますが、そういう事情を抱える家庭に対する支援については、他の関係機関と連携を図りながら進めようと思っても、サービスにつなげにくい場合など重層的な課題を持っている方が増えていきますので、そういうところに苦慮しながら対応しています。</p> <p>以前は3世代で暮らす家庭が多くて、家庭の介護力が高かったのですが、高齢世帯や単身の世帯が多くなっていまして、そういう介護力がない方が増えてくると、何かあったらセンターということで、地域の方が安心して暮らせるように業務を進めていこうと思っています。</p> <p>仕事をしていけば要介護状態になりはしますが、どうしても地域につながっていかないと、ゆくゆくは御本人が、地域との関わりを持ちにくくなってしまいますので、訪問したときになるべく地域資源につなげたいと思っていますが、お仕事をしているので訪問してもいらいやらないということが多くありまして、そういうところが今後の課題</p>

	<p>と思っています。</p> <p>先日、くらしの会から認知症サポーター養成講座を行ってほしいという地域からの講演依頼があり、市民プラザで約100名の方を対象にサポーター養成講座を行いました。</p> <p>あとは、地域の老人会からもお話がありまして、そういうときには積極的に地域に顔を出すなど、できるだけセンターの顔を知ってもらうように活動をしています。</p>
<p>高齢者相談センターふれ愛の郷</p>	<p>今年度の新規の相談件数は、例年より少し増えてきています。他の圏域でもあったとおり、独居高齢者、高齢者のみの世帯、親族・家族がいても家族の介護力が乏しい方や物理的に遠方でなかなか関わりが持てない方、そもそも関係性が薄くて関わりが持てない方、そういった方達の情報をセンター内で共有していますが、実際の支援につながるまでには時間を要し、センターとの関係性をつくりながら進めているというところがあります。</p> <p>大利根圏域内でも高齢者の介護問題だけではなくて高齢者と一緒に住んでいるこどもの問題、金銭のことなど経済的な問題に関する相談もあります。</p> <p>大利根地域のサロンは、現在30箇所であり、センターも毎月、活動状況の確認をさせていただいております。</p> <p>それぞれ地域で独立して活動しているというようなどころがありますが、引き続き関わりを持ちながら、確認をさせていただければと思っています。</p> <p>あと、戸別訪問をアウトリーチ支援として行ってまして、そこから相談につながったケースが非常に多くなってきたので、引き続き来年度も継続して取り組んでいければと思っています。</p>
<p>野呂委員長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいま、事務局と各高齢者相談センターの職員の皆さんから説明がありましたが、御質問、御意見等ありましたら挙手をお願いしたいと思います。</p>
<p>大瀧委員</p>	<p>このたび、民生委員代表ということで委員の委嘱を受けました大瀧と申します。</p> <p>僭越ではございますが、民生委員についてお話しをさせていただきたいと思います。</p> <p>昨年12月1日に全国一斉で改選になり、加須市も約半分の民生委員が新たに任命されています。</p> <p>委員は加須市全体で240人いて、騎西地域でも40名のうち半分の20名が改選になり、その代わった20名のうち10名の方がお仕事をしています。年齢的に若いのでなかなか会合に出席できず、年休をとらないと出席できないということがあります。</p>

	<p>また、民生委員が決まらないという欠員の地区も、5箇所から6箇所あり、今後その地区の業務をどうしていけばいいのかというのが、民生委員としての今後の課題です。</p> <p>個人的に民生委員を9年務めて、10年目に入っていますが、1期3年ではなかなか分からない部分があります。</p> <p>そのため、普段から高齢者相談センターには色々とお世話になっていますし、よくやっているなというふうに私は感じています。</p> <p>とにかく困ったらセンターに相談をというふうに話をしているところです。</p>
野呂委員長	<p>民生委員さんの状況について教えていただきました。</p> <p>半分が改選になって、そのうち、地域ごとに差はあると思うのですが、まだ現役で仕事をしている方もいるということで、委員としての活動や集まりにもなかなか出席できないという方もいらっしゃる中で、高齢者に関することであれば、高齢者相談センターに相談するようにと連携をとっているということなので、今後も民生委員さんと協力をしていくために、委員活動に参加できない方への普及や理解をしていただくための工夫も必要と感じました。</p>
石原委員	<p>事業計画案ということで、これだけの資料にまとめていただいて、各業務区分を含めて、色々なことに対して数値目標を掲げて取り組んでいて、非常によくやっているのだなというふうに思いました。</p> <p>ただ、事業計画として見たときに、市として高齢者相談センターの運営の中で何を大項目として、着眼点を持ってやるかということが、この資料の中ではちょっと分かりにくいと感じました。</p> <p>先ほど、センターからの報告では、地域の困りごとや特色を踏まえた対応、あるいは反省点などを述べていただきました。</p> <p>そういった各センターの声が、この事業計画にどのように反映されているのか、おそらく事業計画のまとめ方としては、各センターからのボトムアップだと思うのですが、市として各センターの事業に頼るということではなくて、リーダーシップをとっていただくために、市としての事業計画が大上段にあって、そこからブレイクダウンをしていって事業計画になるものと思いました。</p>
事務局	<p>市の高齢者施策に対する方向性や考え方としましては、第5次加須市高齢者支援計画を作成し、これに基づいて実施しているところです。</p> <p>この計画の中では、3本柱で高齢者福祉計画、第9期介護保険事業計画、そして認知症施策推進計画がありまして、この計画の中で一番大事にしているのが、地域の絆と協働の力で高齢者が健康で安心して住み続けられるまちづくりとなります。計画に位置付けているもののうち、高齢者相談センターが担っている部分を、資料6の高齢者相談センター運営方針でお示ししているところです。具体的には、セン</p>

	<p>ターが重点的に行う業務の方針や、事業の実施に係る基本方針を掲げています。</p> <p>本市でも高齢者人口が増加しており、センターから報告があったように身寄りがない方や地域との関係性が少ない方、独居の高齢者が非常に増えています。</p> <p>高齢者が安心して住み続けられるまちということで、市で計画を立てて、それに基づいて業務をお願いしているという形になります。</p>
野呂委員長	<p>高齢者支援計画に基づいた方針があって、それに基づいて各センターの計画が立てられているというその流れが、もう少しコンパクトな概略版のような形で示されている資料があればと思います。</p>
中田副委員長	<p>各事業所や地域によって、問題点が共通なところもあるし、違うところもあるという感じがしました。</p> <p>そこで、市がそれぞれの地域の一番重要なところや問題点をまとめて、優先順位が高いものから対策を考えていくというのも1つの手と思いました。</p>
野呂委員長	<p>私は県の在宅医療推進委員をやっている、そちらで県の医師会の方達とACPの普及活動をしています。</p> <p>人生会議と言いまして、終末期をどうするのかということの普及啓発していくのですが、高齢者サロンなどで60歳から70歳位の方達に声をかけても、まだ働いている方がたくさんいるという状況があります。そういう世代の方達に、サロンに参加してもらうというよりも、まちづくりに協力してもらうというような、ちょっと視点を変えた参加の仕方とかそれから民生委員さんの中にも働いている方もいらっしゃるの、会議開催の時間帯を夜にシフトしてみるという考え方があるかもしれません。</p> <p>あと、そのACPの普及活動も小学生からもう始めようという取組があって、小さい子ども達と家族単位で考えていくということで、ぜひ高齢者相談センターの方々が、例えば認知症サポーター養成講座の説明をする以外に、ちょっと視点を変えて、何かもっと楽しい、面白いことを子ども達と一緒に遊べるような場として作って、そこに家族と一緒に来てもらうなど、そのような新しい提案をして人に集まっていたくきっかけづくりは、まだまだできるのかなと思いました。</p> <p>是非高齢者相談センターでも、ACPの普及活動を御検討いただければと思います。</p>
中田副委員長	<p>今委員長が言ったことはとても面白いことで、高齢者の話題に小さい子ども達を巻き込んで学んでもらうのは、私も良いのではないかと思います。</p> <p>α世代といわれる2歳から大体16歳ぐらいの人達が2040年にはもう世の中の中心になっていきます。α世代はITが当たり前の</p>

	<p>ジェネレーションの中で育っております。親子や人間関係など、また高齢者の対応についても今とは違った考え方もあるのではないかと思います。</p> <p>今日の会議を今まで聞いていて、民生委員の方達はすごく大切な役割を担っているということを感じました。民生委員の方達にもオンラインなどを使い、会議に参加して頂けたらもっと充実した良い意見の交換ができるのではないかと思います。</p> <p>それから高齢化ということについてですが、統計学上、高齢化率がどんどん上がっていくのは当然のことと思います。</p> <p>また、在日資格を有する外国の方についてですが、高齢者相談センターなどを含めて日本社会のことについて、理解・協力してもらいお互いにより関係で共生できれば、高齢化についてもプラスに働くのではないかと思います。</p> <p>高齢者が孤立・孤独化したときに、誰に頼ればよいのか分からないというときに、問診票の中に家族歴を付け加えて協力してもらえば、その人に何かあったときに得られる情報の参考の一つになるでしょう。</p> <p>また、今までの議事でも熱中症問題がかなり出ていました。</p> <p>高齢化という面からだけでなく、環境的な面からも予測される気候や気温の変動に対して、どのように対処していくのかという知識を他の専門機関ともコラボしてアドバイスを受けることは非常に重要なことだと思いましたし、経済的にもプラスになるのではないかと思います。</p>
長谷川委員	<p>高齢者の相談先として老人クラブというものをもっと利用してほしいと思います。加須市には組織体が多くあり、家族のつながりを歴代の各会長が知っています。</p> <p>そして、把握している地域の皆様の情報を高齢者相談センターへつなげていくという意味で、老人クラブを地域の相談先として御利用いただき、大利根高齢者相談センターふれ愛の郷とも連携を図っていきたいと思います。</p>
瀧澤委員	<p>日々の業務の中で成年後見やひとり暮らしで亡くなってしまった人の相続など色々なことがありまして、この事業計画を見ますと高齢者相談センターは、本当にありがたい存在だと思います。</p> <p>高齢者相談センターの方の専門知識でアドバイスできるのかということについてどのように考えたらいいかという疑問があります。例えば、成年後見を普及させるという点では、成年後見制度を説明することなのか、それとも家庭裁判所に審判を求めることまでやるのかということです。</p> <p>それから、例えばさっき言ったように、ひとり暮らしの高齢者が亡くなってしまったときに相続がとても大変なのです。</p>

	<p>現場の者としては、ひとり暮らしの方たちに、高齢者相談センターが遺言書の書き方などに関する研修を開催するというような取組が必要なのではないかと思っています。</p> <p>家庭裁判所に失踪宣告の申立てをすると、10箇月くらいの長い期間がかかるので、せめてひとり暮らしの人には相続に備えて公正証書の作成などを指導していただきたいと感じます。</p> <p>それから、成年後見に関して、埼玉県のみじみ野市などでは市民後見人養成講座というのを実施しています。</p> <p>50歳から60歳のまだまだ元気という人が、70歳から80歳の人の後見人をやってもよいと思いますので、そのために必要な知識習得のための講座を開いて、後見人としての資質を身につけて、高齢者相談センターが成年後見の申立てをするときには候補者になってもらう、そのような市民後見人養成講座というのも選択肢の1つと考えていますので、御検討いただけたらありがたいです。</p>
大瀧委員	<p>今の御発言に関連して、私にも経験があって、ひとり暮らしの方が亡くなったのですが、結局その引受人がいなくて、兄弟からも他の家族からも権利を放棄しますと言われていたケースです。</p> <p>そのため、空き家もそのまま、長いところは2年ぐらい放置され、敷地内の草刈ができず、伸び放題になっているというような場合があります。</p> <p>誰に相談すればよいのかというところで、市で発行したエンディング・ノートがありましたよね。あれをサロンの集まりのときに紹介して、活用させてもらっています。</p>
事務局	<p>エンディング・ノートの御活用ありがとうございます。</p> <p>本市では今年度から終活支援の取組ということで、エンディング・ノートを配布し、また、ひとり暮らしの方が市に事前に情報を登録していただければ、救急搬送の場合などいざというときに、市から関係する機関に御連絡を差し上げるというサービスや葬儀の生前契約をお手伝いする取組を始めたところです。</p> <p>この終活支援事業につきましては、コミュニティセンターなどを会場にして、市民の方に周知をしていますので、もしそういった説明をお聞きになりたい場合は、お声掛けいただければと思います。</p>
野呂委員長	<p>それでは、議事の(1)については以上とし、次の議事に移りたいと思います。</p> <p>議事の(2)について、事務局から説明をお願いします。</p>
	<p>4 議事(2) 地域密着型サービス運営委員会</p> <p>① 令和7年度地域密着型サービス事業所の公募結果等について</p>
事務局	<p>(令和7年度における①看護小規模多機能型居宅介護事業所の公募結果②認知症対応型共同生活介護事業所の公募結果について、資料</p>

	9 及び資料 10 により説明)
野呂委員長	<p>看護小規模多機能型居宅介護は、応募はあったけれど十分に条件を満たしておらず、認知症グループホームは応募件数がゼロだったということで、令和 8 年度も引き続き公募していく方向性ということですね。説明会や近隣市町の状況を踏まえて門戸を広げて、色々なところから声をかけられるよう工夫してもいいのかなと感じました。</p> <p>何か具体的に、方針は検討されていますか。</p>
事務局	これから今回の審査結果などを踏まえて検討していきたいと考えています。
	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、議事については、以上といたします。</p> <p>最後に、次第の「5 その他」に移りたいと思います。事務局からお願いします。</p>
事務局	<p>5 その他</p> <p>(来年度の運営委員会の開催について、スケジュールの概要を説明)</p>
野呂委員長	それでは、本日予定された議事は全て終了させていただきます。長時間に渡り、熱心に御協議いただき、ありがとうございました。
	6 閉会 (副委員長あいさつ)
中田副委員長	<p>時間に限りもありますので手短かに申し上げます。</p> <p>時代の経過とともに我々を取り巻く環境も大きく変化し、人や経済にも大きな影響が生じているものと思われまます。</p> <p>委員の皆様で知恵を絞って、少しでも加須市や日本に役立てるよう頑張っていきましょう。本日はありがとうございました。</p>
<p>会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。</p> <p>令和 8 年 2 月 / 2 日</p> <p>署名 <u>野呂 敦人</u></p>	